

学位論文審査の結果の要旨

1. 申請者氏名	長井映雄
2. 審査委員	主査：（鳴門教育大学 教授） 菊地 章 副主査：（鳴門教育大学 教授） 伊藤 陽介 委員：（兵庫教育大学 教授） 小山 英樹 委員：（鳴門教育大学 教授） 宮下 晃一 委員：（鳴門教育大学 准教授） 宮本 賢治
3. 論文題目 高等学校情報教育における問題解決能力育成のための授業開発	
4. 審査結果の要旨 教科教育実践学専攻生活・健康系教育連合講座 長井映雄 から申請のあった学位論文について、兵庫教育大学学位規則第16条に基づき、下記のとおり審査を行った。 論文審査日時：平成31年2月3日（日） 14時15分～14時45分 場 所： 鳴門教育大学 自然棟1階 C106室 1. 学位論文の構成と概要 本研究は、高等学校情報教育における問題解決能力育成のための授業開発について考察している。本論文の構成は以下の通りである。 第1章は、研究の背景と目的を示しており、情報社会の発展の経緯ならびに世界の情勢を踏まえた情報教育について考察しており、これらを踏まえた問題解決能力の育成の必要性について論じている。 第2章は、諸外国における情報教育の現状と日本における情報教育の推移を整理し、これからの時代に求められる小・中・高等学校の情報教育の展開について考察している。さらに、情報教育における具体的な授業開発の展開と、基本的な問題解決能力を発展的に育成するための高等学校情報教育の重要性についても考察している。 第3章は、中学校から高等学校への情報教育の接続を意識した授業について論じている。中学校における情報教育の中核を担っているのが「中学校技術・家庭科（技術分野）」であるため、技術・家庭（技術分野）教育の有用性を検証し、技術分野で育まれた問題解決能力を高等学校情報で発展的に向上させるための授業開発について考察している。 第4章は、高等学校における問題解決能力育成のための授業について論じている。教科「情報」において、総合的な科目として位置付けられているのが「課題研究」であるため、中学校技術・家庭（技術分野）教育で培われた問題解決能力を「課題研究」の中で発展的に向上させるための授業開発について考察している。	

第5章は、高等学校から社会への接続を意識した授業について論じている。情報社会の発展に伴う急激な社会構造の変化が予想されているため、ビッグデータを活用してこれからの社会に求められる問題解決能力を身に付けさせるための授業開発を行っている。

以上のように、本研究では中学校から高等学校への接続、高等学校での問題解決能力の向上、高等学校から社会への接続の視点から考察し、高等学校情報教育の授業開発を通して問題解決能力育成を志向した授業開発を行っている。

2. 審査経過

本研究は、高等学校情報教育における問題解決能力育成のための授業開発について考察しており、中学校から高等学校への接続、高等学校での問題解決能力の向上、高等学校から社会への接続の三つの視点から研究を行っている。このとき、高等学校総合学科における情報教育を、高等学校共通教科情報での問題解決能力育成に関連させるとともに、高等学校専門教科情報の就業意識とも関連させている。これにより、研究を通して得られた高等学校情報教育の授業開発の成果が今後の日本の高度情報社会を支える問題解決能力を備えた人材の育成へ寄与すると期待できる。

3. 審査結果

以上により、本審査委員会は 長井映雄 の提出した学位論文が博士（学校教育学）の学位を授与するにふさわしい内容であると判断し、全員一致で合格と判定した。